



広島市立安佐市民病院広報紙

—第31号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>



井上 和信

リハビリ科技師長

開院以来お世話になりました。

最初訪れたとき可部の町はずれにでつかい建物（病院）が建っていました。少し驚き、これが安佐地区中核病院だと思いました。当初は近隣の患者さんが車いすや杖で来院され、遠くの方は乗用車を利用して通院されていた。そして基町の市民病院からリハビリの受け皿として何人かの患者様が転院してこられた。今も忙しいのですが開院当時は土曜日半日勤務で、開院したのち一日の業務量を半日ですら終らせていました（無理をしていたものです）。

三十年余り勤務しましたが数年前地域の病院ということで区役所の機能訓練事業に参加させて頂き患者さんと家族の方として保健師さんにお世話になりました。この体験は個人ではなくチームワークによって我々の仕事が生かされているのだなあと感じました。現在は地域連携の急性期病院を担当していますが、以前に比し地域の皆さんとの関わりが少なくなっています。回復期病院との連携はしっかり取っていますので、安心して下さい。地域の皆さんありがとうございました。



いました。余り無理をされないよう「まめで」お過ごし下さい。



山本 茂樹

放射線科技師長

放射線科の装置について

放射線科では通常業務以外にも、急患で来院される多くの患者様に対し様々な検査や治療がされています。X線CTは欠かす事が出来ない検査です。平成二十一年十二月に導入されたX線CT装置は、新聞でも報道されましたが、短時間撮影が出来る特徴から小児領域、意識障害、痛みや苦しさの為に意思疎通が出来ない場合等に画像が撮れます。また撮影データを利用して三次元画像処理は診断、患者様説明、手術シミュレーションに無くてはならないもの

シオンに無くてはならないものになっていきます。今迄、心臓領域においては心臓カテーテル検査が中心でしたが、短時間できれいな三次元画像が出来る事から、急患の場合でも緊急を要さない場合や、退院後の経過観察等についてはX線CT検査に変わって来ています。がんの治療方法として大きく分ける外科的手術、化学療法、放射線治療があり、これらを単独又は組み合わせて治療しますが、放射線治療の場合はがん病巣だけに高エネルギーを照射する為に、

身体の高エネルギーを残すという特徴があります。高エネルギーを使用する事から、医療事故防止の為に医師及び放射線技師は、二名以上のペアを組んで細心の注意を払いながら治療をしています。導入が予定されているPET-CT装置を始め、これからも最先端装置の導入により安佐北地区及び、北部地域の医療機関や患者様に対して今以上に信頼して頂ける放射線科を目指してまいります。



葛城 寿江

臨床検査技師長

ありがとうございました

広島市民病院に十七年勤務の後、是非にと自ら希望して安佐市民病院へ異動となり早くも十七年が過ぎようとしています。何かひとつでも安佐市民病院の役に立ちたいと意気込んでやってきたものの、不勉強で力を持てない私はみなさんの邪魔をしないという事で精一杯でした。こんな私が無事に定年の春を迎えることが出来るのは、安佐市民病院で多くのすばらしい方々にお会いすることができたから、もちろんのことお一人の人間とは

して尊敬して止まない岩森・林両先生を始めとする多くの先生方、ご指導くださった技師長や他部署の方々、そして何より、優秀な臨床検査部のスタッフに恵まれたからこそ、微力ながら頑張ったのだと思います。これから一職員としてではなく一患者として病院と関わっていくことになるかと思いますが、安佐市民病院が、患者様を思いやる心を大切に患者様との信頼関係をしっかりと築いていけるよう、今よりもっと元気のある安佐市民病院であるよう、応援



団の一員として頑張っていると思っております。ありがとうございました。

セカンドオピニオンを 上手に使いましょう

セカンドオピニオンと言うカタカナの意味を正確に承知している人は医師も含めて少ないのではないのでしょうか？今回はセカンドオピニオンの本来の意味とその成り立ちについて説明し、本来の利用の方法とその際の注意しておいた方が良い事について説明します。



外科主任部長
平林 直樹

セカンドオピニオンとは？

医療が進歩した現代においてもなお、がんに対して絶対という治療法はありません。また、どんな検査や治療法でも限界とリスクはつきものです。この様な状況の中で担当医一人の治療方針だけでなく複数の医師の意見を聞いて自分の状況や価値観にもっとも適した治療法を選択することが大切です。すなわち担当医との良好な関係を保ちながら自分の病気に対する治療法等について複数の医師の意見を聞く事です。患者さんにとって納得して自分の意思で治療法を決める事が大切であり基本的な権利ともいえます。

セカンドオピニオンではない事例

時々以下のような事例でセカンドオピニオンを希望される方がおられますが、前述のセカンドオピニオンの定義とは内容が大きく異なることをご理解ください。

1

担当医を変えてもらいたい。紹介先の病院で治療を受けたい。

3

担当医の良し悪しを評価してもらいたい。

2

担当医に質問しにくいので別の医師に聞きたい。

4

以前受けた治療が適切だったか？あるいは医療ミスではなかったか？を知りたい。

セカンドオピニオンを受ける前の準備

担当医の説明の内容が良く分からない。今後如何にして良いかわからないという場合は前述しましたようにセカンドオピニオンの対象とはなりません。高い料金（現在多くの診療機関では保険診療として受け付けていないので自費になる場合が多い）を払ってまで他の医師の意見を聞く訳ですから、聞く目的と問題点が予め明らかになっている必要があります。では具体的にどの様にすれば良いのでしょうか？

1. 現在の担当医との関係が切れる訳ではない事を再確認しておく。担当医の変更が目的ではなく、むしろ担当医との信頼関係をより強固にして安心して検査・治療を受ける事が目的。
2. 担当医に検査・治療に関する説明を良く聞き（出来ればメモを取る）自分にとって何が問題かを整理しておく。
3. 受け入れ先の病院では時間が限られているので何が聞きたいかをまとめておく。担当医の愚痴や検査結果の説明を受けに行くのではない。
4. セカンドオピニオンには患者さん自身の病気に関する全ての資料が必要です。予め資料の送付を求められる病院もあります。予約の時に準備に必要なものを確認しておきましょう。当院では地域連携室が相談に乗ってくれます。
5. 集められる情報は可能な限り集めておく。当院でも“患者サロン”やがん相談室に各種がんに関する情報や“がんになったら手にとるガイド”を置いております。どうか上手に利用して下さい。

何処の病院に行けばよいのか？

これが一番の問題です。本・インターネットあるいは口コミ等で情報を得るしかないと思われませんが、担当の先生に直接聞かれても良いと思います。治療全般であれば担当の先生が外科系（内科系）の先生であれば内科系（外科系）の先生に相談し異なった視点からの意見を聞くとか、手術に関する事であれば外科医師に、化学療法（抗がん剤治療）の事であれば腫瘍内科の医師の意見を聞く事が一般的だと思われます。

遠くに行きたくない場合は如何にしたらよいのか？

当院はがん診療連携拠点病院に指定されています。指定要件にキャンサーボード（多職種：外科系医師、内科系医師、放射線科医師、腫瘍内科医、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー等から構成された医療チーム）の定期的な開催が義務付けられています。定期開催のキャンサーボードでは手術を受けられる患者さんの検討をおこなっていますが、治療の判断に悩む患者さんに関しては緊急にキャンサーボードを開催して今後の治療方針を決めています。ご自分の治療法に関してセカンドオピニオンの利用に加えて、自施設でのキャンサーボードを利用して頂くのも一つの方法だと思います。担当医に遠慮なくご質問下さい。

以上セカンドオピニオンについて簡単に説明しました。患者さんにとっては治療決定の際の大切な判断材料の一つになります。どうか上手に利用されることを希望します。

腫瘍内科の開設に向けて



呼吸器内科（腫瘍内科）
北 口 聡 一

私が、がん（腫瘍）の治療に興味を持ったのは、柳田邦男氏の「がん回廊の朝」を読んだ高校時代です。東京築地の国立がんセンターの先生方が、がんに立ち向かう、情熱と執念が直に伝わりました。医師になった平成元年は、まだキレの良い抗がん剤はなく、副作用の嘔気も強いものでした。肺がん治療は今後、大きく発展するにちがいないと考え、大先輩に江川副院長など肺がん治療に情熱を燃やすパイオニアがいらっしゃる広島大学分子内科学（旧第二内科）（河野修興教授主宰）に平成2年に入局し肺がんの治療に携わってきました。平成19年に、がん薬物療法を臓器横断的に実施できる腫瘍内科医を目指して日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医となりました。最近では、尾道総合病院、県立広島病院、広島市民病院で勤務しておりましたが、米国バンダービルト大学がんセンターや東京国立がん研究センター中央病院消化管腫瘍科、乳腺腫瘍科での研鑽も積んできました。

がんの治療の中で、手術、放射線治療と同様に、がん薬物療法も、急速に進歩しており、薬物治療による腫瘍縮小効果の改善や生存期間の延長が、我々にもしっかりと実感できるようになり患者さんに喜んでいただけるようになりました。制吐剤など副作用対策の良い薬も次々と登場しています。がん薬物療法の重要性が増し、患者さんも、日常生活を送りながら薬物療法を受ける期間がどんどん長くなっています。個々の新薬の多岐にわたる副作用も熟知し、対処していく必要があります。

安全で効果的な、がん薬物療法を専門とする科である「腫瘍内科」が欧米と同様に必要な時代となってきたのです。私は、広島市立安佐市民病院の最先端でありながら患者さんを大切にする、多職種による、すばらしいがんチーム医療の中で、他科と連携をとりながら、当院のがん治療充実構想の一環である腫瘍内科開設とその充実発展に全力で取り組んで参ります。また最先端の標準治療構築に参加できればと考えています。

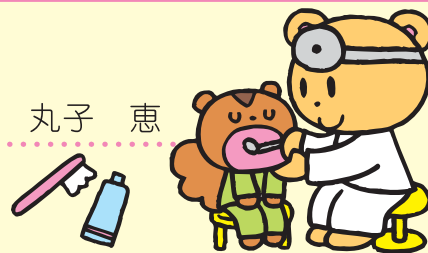
当院での腫瘍内科は、肺腫瘍のみならず、消化管や乳腺の腫瘍を始め、原発不明がん、重複がんなどの治療や、外来化学療法（化学療法センター）の運営を担当することになります。

10月より木曜日に腫瘍内科外来を開設し院内での診療を開始していきますが、徐々に院外の症例にも対応していきます。何卒、ご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



口腔ケア って知ってますか？

歯科衛生士 丸子 恵



口腔は、「食物を摂取する」という働きだけでなく、「呼吸」「発音」など生きていくうえで非常に重要な役割を果たしています。生物として生命を維持していく意味においても、人として質の高い生活を送っていくうえでも欠かせない働きをしています。

おいしく食べることで得られる満足感や心の安定は、「人間らしく生きている」意味を持たせてくれる重要なポイントです。

我が国は2015年には4人に1人が65歳以上の高齢者になると予測され、高齢化に伴う要介護認定者の増加も見込まれます。厚生科学研究（8020データバンク調査）では、「満80歳で20本以上の歯が残っている」または「よく噛めている」人たちは、視聴覚機能をはじめ生活の質や運動・活動能力に優れているとの結果が示されています。

健康寿命の延伸とQOL（生活の質）の維持・向上のために口腔の管理（口腔ケア）を始めましょう。

最近では毎日のように多くの口腔ケア製品のCMが流れ、販売されています。しかし、これだけの健康意識の高まりにも関わらず、厚生労働省が行った調査（平成17年）では成人の約8割に歯石の付着あるいは歯周病の存在がみつめられています。

歯周病は口腔内細菌感染症で、初期ではほとんど症状がないのが特徴です。歯を失う一番の原因となるだけでなく、多くの全身疾患に影響を及ぼすことが明らかにされています。また口腔内には500種類以上の細菌が住んでおり、外来菌の定着を防ぐなどの働きをしています。

しかし一方で誤嚥性肺炎など感染症を引き起こす原因にもなってしまいます。毎日のケアで細菌の数や質をコントロールすること、口腔機能（食べる、飲み込むなどの機能）を維持していくことが大切です。



健康な口腔内

まず、自分の口腔の状態を知ることからはじめましょう。

口腔内の検診を受け、必要であれば治療もしっかり済ませて環境を整えることが必要です。そして自分に最適なセルフケアの指導を受け、毎日の口腔ケアを効果的に継続していきましょう。

この症状が一つでも該当する場合はすでに歯周病にかかっている可能性があります。早めに歯科医院に受診しましょう。

当院における口腔ケアの取り組み

入院中の要介護者に対する口腔ケア
がん治療中の口腔ケア
人工呼吸器装着中の口腔ケア
糖尿病教室での口腔ケア指導
妊産婦教室での口腔ケア指導

歯周病チェック

- ☐ 歯ぐきが赤く腫れている
- ☐ 歯磨きの時に血が出る
- ☐ 歯ぐきを押さえると血や膿が出る
- ☐ 歯がぐらぐら動く



球菌

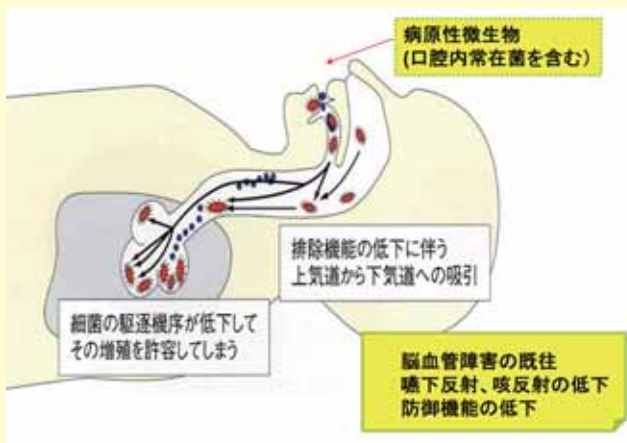


桿状菌+球菌



桿菌

プラーク中のいろいろな細菌



要介護者における誤嚥性肺炎

医療連携室よりお知らせ

がん患者さんやご家族が、病気について様々な情報を得る事で、前向きに生きる力を得て頂くことを目的に「患者サロン」を開設しました。

がん患者サロン「すずらん」では毎月1回（第3木曜日14:00～15:00）、がんと宣告された方々の同じ立場でのおしゃべり会や医師、看護師などによる研修会も企画しております。特に予約は設けておりませんのでご自由にご参加下さい。

患者サロンは当院に通院中の方に限らず地域の住民の皆さんにも広くご利用して頂けます。



がん患者サロン すずらん

▶▶▶今期10月以降のサロン予定表です▶▶▶

日程	テーマ	講師
10/20	おしゃべり会	看護師が同席します
11/17	肺がんについて	呼吸器内科 佐々木 啓介医師
12/15	おしゃべり会 (クリスマス会)	看護師が同席します

時間：午後2時～3時
場所：患者サロン
対象：当院のがん患者さま・ご家族さま
～予約は不要です～

問い合わせ先：広島市立安佐市民病院 医療支援センター がん相談窓口
(1082) 815-5211 (内線 2280)

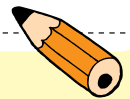
皆さまの 声

電話で入院の為、薬の相談をしたが冷たい対応をされた。年をとっている為回りくどい聞き方だったかもしれないが患者の立場にたって対応してほしい。

入院手続きに時間をとりすぎる。

病院全体が患者目線になっていない。行くとたびに嫌な思いになる。

病気があるのでしかたがないが、本当にいつも嫌な思いをして帰る。



皆さまの声の対応

「皆さまの声」へ貴重な意見をありがとうございます。

入院までの患者様からのお問い合わせは各科外来看護師が対応を行っておりますが、丁寧な対応ができず、ご不快な思いをおかけし、大変申し訳ありませんでした。各科職員へは接遇指導を行っておりますが、再度接遇対応を徹底するように指導を行いました。

入院手続きにお時間がかかる件に関しましては、入院説明は患者様のプライバシーを考慮し適切な説明と確認を行うために、入院説明担当看護師が相談室で行っております。また、何度も来院していただかなくても済むように、患者様には各科外来診察当日に入院前の検査などをさせていただいております。その為、各検査室などに行っていただきますことについては、ご理解とご協力をお願い申し上げます。なるべく短時間で帰っていただけるように、各部署とも努力してまいります。

今後とも、お気づきの点がありましたら、職員に遠慮なく声をかけて頂きますようお願い申し上げます。

外来1－1看護師長 糸川 直美

【病院機能評価】

安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

